

「子どもへのメッセージ」について

子どもたちの健全な育成のためには、学校・家庭・地域が連携・協働して子どもを育てることが大切です。連携するためには目指す子ども像や地域像が共有されなければなりません。

そこで、「こういう子どもになってほしい」という大人の願いや思いを込めた指標となる「子どもへのメッセージ」を策定し、平成26年7月14日に発信しました。それぞれの地域や学校区では、これを重点化したり項目を追加したりしながら、実情にあったメッセージを策定していただいています。

「子どもへのメッセージ」は、子どもへの期待だけでなく、「夢・憧れ・志」をもってがんばる子どもを育てるために、大人（親や地域の人々）がどうあるべきか、どのような姿勢で臨まなければならないかを考える機会となることで、大きな意味をもっています。

「子どもへのメッセージ」について

平成26年7月
長崎県教育委員会

長崎、佐世保の痛ましい少年事件から既に十年の時が経過し、私たちは、改めて事件の大きさと教育の責務の重さを感じています。

今日、子どもたちを取り巻く社会状況や教育が抱える課題は、ますます厳しく、複雑化・多様化しています。子どもたちの教育に第一義的責任を有する保護者による教育がますます重要性を増しているにもかかわらず、道徳性のない大人たちの振る舞いに翻弄され、子どもたちが将来への「夢・憧れ・志」を抱いて力強く生きていこうとする社会状況になり得ていないことを、我々は大変憂慮しています。

しかし、これまで、事件の反省に立った学校・家庭・地域それぞれの取組によって、社会全体で子どもたちを見守り育てていこうとする動きは力強くなり、様々なかたちで地域社会に浸透してきていることもまた事実であります。

今こそ、我々大人が教育の原点に立ち返り、時代が変わっても変わることのない教育の不易というものをしっかりと認識して子どもたちに向き合うことが重要であると考えます。「子どもへのメッセージ」は、そうした思いを抱く大人から子どもへの願いであり、エールであります。

そして、このメッセージはとりもおさず大人自身にも向けられています。このようなことを子どもに願う親として、大人として、子どもたちの手本となり、憧れとなるような生き方をし、将来に向けて懸命に生きる姿を示していこうというメッセージでもあります。

「子どもへのメッセージ」は、どれも生活上の当たり前の指標です。しかし、子どもたちがこれを当たり前のこととして身に付け、意識して努力や実践をすることこそが重要です。そのための取組を学校・家庭・地域が一体となっていく、その活動を通して地域社会を構成している全ての人々がつながり合うことが、「夢・憧れ・志」をもって努力する子どもたちを育て、心豊かでたくましい、郷土愛に満ちた、将来を担う子どもたちを育てる長崎県づくりを実現するものであると考えます。

「子どもへのメッセージ」は、このような趣旨と願いをもって策定しました。